

弘前大学国語国文学会報

No. 22
弘前大学国語国文学会報
昭和56年6月8日

子規書簡の断簡について

小山内時雄

むかし井手の蛙の千物を見せけるに
彼方よりも長柄の橋の鉤肩を見せたり
とて永く文壇の佳話となれるそれ
にならふとはなけれど須磨の松園御
一覽に封ししめ差上候何と御覧せさ
せ給ふらん承りたくこそ

七月廿五日 つねのり

右は成田由雪が「余が得たる子規先生
の手簡」と題して、弘前の洪茶会が発行
した俳誌「洪茶」冬の号(明治四二・四
九)で紹介した正岡子規の書簡という
全文である。
「部へは」の歌は「竹乃里歌」の明治
二十八年夏の部に、「須磨の松の苗を手
紙の中に封じてめて部の何かしにおく
とて」(傍点部)と詞意のある一首で
ある。由雪が紹介した書簡には宛名がな
いし、もちろん由雪宛のものとは考えら
れない。「余が得たる」とあることから
も、誰かから貰ったものとも考えられる。

日々雑感

四十一年 柴田友子

先日昨夜、定例テストの問題をタイプ
していたら、小三の娘に、「自分で問題
を作るの?」と怪訝そうに訊かれた。「そ
うよ、あたりに前じやない」と答えても
納得しない顔で立っている。挙句に「大
変だねえ」と同情され、やっと彼女の真
意がわかった。教師の作ったテスト問題
を知らないのである。
実は昨年一年生の現園を担当して苦笑
したことの一つは、作家や作品について
調べさせると、コピーの切り抜きを貼付
したり、関連事項を数枚コピーしてホッ
キスで留めノートに挟み込んで提出し
たりする生徒がクラスに何名かずついる
ということであった。
考えてみると、彼らは小学校から現在
に至るまで、市販のテスト問題、コピー
の資料、問題集の切り抜きコピーのテス
ト等々で育ってきた世代なのだ。確かに
手軽で、小さいので、程よくポイントが
おさえられており、何よりも時間のムダ
がない。

とすれば、私はやはり手作り問題に拘ら
ざるを得ない。
自分が頑固な原則論者になりつつある
のかと反省したり、授業中、「やる気が
ないの?」と決め付けた生徒から、日誌に
「風邪がはやっていますから先生もお休
みに気を付けて下さい。」などと殊勝げに言
かれると、とんに、「人間に大切なのは
この優しさだ」と、節操のない感謝にす
ぐ浸ったりの今日この頃である。(弘前中央高校教諭)

新任教官自己紹介

川本 栄一郎

昭和二年、下北郡大畑町生まれ。昭和
三十一年三月、弘前大学教育学部野辺地
分校修了。昭和四十二年三月、東北大学
大学院文学研究科博士課程を終え、同年
四月から本年三月まで金沢大学教育学部
に勤務。本年四月、弘前大学教育学部に
移りました。専門は方言学です。青森県
の方言を中心に東北方言の研究をやりと
いと考えています。どうぞよろしくお願
いいたします。(人文学部教授)

鈴木 正道

昭和十三年、静岡県生まれ。静岡大学
教育学部卒業。国学院大学大学院博士課
程(国文学)を経て、山形県立米沢女子
短期大学に十三年間勤務。五十六年四月、
弘前大学教育学部に赴任しました。専攻
は、中世文学で、新古今歌人の研究をし
ています。微力ながら教育と研究に一所
懸命に努力する所存でございます。どう
ぞよろしくお願ひ申し上げます。(教育学部助教授)

取入れたものに無之(二六字略)中々上手
の病者も見受申候」で以下切れて無い。
この後に「むかし井手の蛙」と続けて
も、そう不自然ではない。
處子の「子規居士遺稿談(全集別巻)
によれば、「保業院に於ける居士は再生の
祝びに光り満ちてゐた」洋々たる前途の
希望の光りに輝いてゐた」と述べている。
そのような自分を子規は松の苗に托して
鳴雪に贈り、羯南に贈ったのではあるま
いか。由雪所持の書簡はもちろん、羯南
宛の書簡の現物を見れないが、両書簡
は繋るのではないが、そう弱く考えてみ
るのである。

昭和五十六年度役員

- 弘前大学国語国文学会
会長 長田貞雄
副会長 福村保
江道隆
幹事 鈴木正道
庶務 小倉登(人文)
佐々木孝二(教育)
監査 窪見邦彦
(教育) 森内勇治
(附屬) 館田勝弘
会計 監査
花田瑞穂
相沢麻夫

昭和五十六年度研究発表会案内

- 昭和五十六年七月四日(土)午後一時三十分より
於 弘前大学教育学部二〇二番教室(二階)
一、研究発表 講演
「仁勢物語」の成立について
中學校における古典の入門教材について
「新編」論のために一序の章の問題をめぐって
「藤田の文学」初期の作品を中心として
北地方における「い」と「た」の語彙
研究系満一子規書簡の断簡について
一、総論 右終了後
二、閉会後懇親会を開きますので御参加下さい。
◎当日午後一時より学会場において運営委員会を開催します。
委員の方は御参集下さい。

岩見 照代

弘前市は都市としての機能を完備しつ
つ、且つ一歩外に出れば田園風景が展開
する理想的な都市形態をもった町です。
今日(五月十八日)生まれて初めて郭公
の声を耳にしました。早朝のさわやかな
空気に値千金。本当に良い所に赴任でき
研究に教育に精一杯努力したい所存です。
どうかよろしくお願ひ申しあげます。
(神戸出身・一夫一女(六歳)あり)
一九八〇年三月東京大学大学院人文系
国語国文学科修士課程修了。近代文学専
攻。(教養部講師)

事務局より

- ◎中学校における頼文指道の問題点
附屬中学校教諭 原千 繁葉
◎「頼」について―古往来の場合―
人文学部助教授 三條 忠夫
◎展示資料について
教育学部教授 長田 貞雄
◎本年度の学会は、七月四日出に開催し
ます。(一面の案内参照)
◎会費(年額一千元)をお払い込み下さ
い。滞納が続きますと退会と認定しま
す。
◎会員として継続する方は同封の振替用
紙を用い、必要事項(学部・卒業年度
等)記載の上、送金して下さい。この
用紙は会員名簿整理用となりますから
一人一枚で願います。
◎出張依頼入用の方は、あて名記入切手
貼付の封筒を同封の上、申し出て下さ
い。
◎住所・勤務先等変更の方は必ずお知ら
せ下さい。
◎弘前大学国語国文学会の機関誌「国語
国文学」第五号が刊行されました。
内容は左の通りです。
◎中世伝承文学における分蘗化の傾向
佐々木孝二
◎明晰往来集巻本の刊注 二條 忠夫
◎教材解釈・鑑賞の方法を求めて
原千 繁葉
◎希望の方は返価六百円に送料百七十
円を添えて事務局までお申し出くださ
い。

- 昭和五十五年研究発表会報告
弘前大学附屬図書館三階研修室におい
て、次の研究発表・講演が行われた。
○遊戯における生活態度の変遷
―「まいた」と「こめびつ」―
柴田学園女子高校講師 森本 良枝
○万葉植物の応用性
附屬幼稚園教諭 沢田 光子